

令和6年度 第1回大津市科学館運営協議会 議事録要旨

令和6年6月27日(木)15:10～

1 挨拶

2 会長挨拶

3 協議及び質疑

(1)令和6年度 大津市科学館運営の方針及び事業計画について

(2)プラネタリウム、券売機の更新等について

委員

ご質問やご意見ございましたらお願いします。

委員

2点質問があります。

先週、わくわくサイエンスに来ていました。その時にプラネタリウムのコナンの番組でたくさんのお客さんが来ているのを見ています。その時に券売機ですごく並んでいて、買うのに時間がかかっている様子がありました。キャッシュレスだったり、佐川美術館のような事前予約などそういったことができる時代に来ているので、そういったことができれば、もっとたくさんの方が入りやすいんじゃないかと感じました。

もう1点思っているのは、はたして大津市の人ほど来ているのかな、ということです。意外に大津市が少なく、他郡市から来ている人が多いのか。そういう人はどれだけいるのでしょうか。実際わくわくサイエンスでは何年生かは分かるけれども、どこから来ているのか分からないので、そういったことも分析ができれば、もっといろんな事業につながる情報になるんじゃないかと考えました。

事務局

現在券売機の更新の手続きをしておりますが、キャッシュレスは当初、仕様から省いていました。大津市全体では、一部キャッシュレス対応しています。やはり乗り遅れるのは具合が悪いと判断いたしました。新しい券売機は、対応できるように進めています。

キャッシュレスは、手数料が必要ですので、100円が100円入ってくるわけではなく、収入が減るといシステムになっていますから、導入時期については、慎重に判断します。いざ導入するとなったとき、また別途お金がかかるのでは、せっかく新しい機械をいれたのに、意味がないということいつでもキャッシュレス導入が可能な券売機を入れておこうというのが、今の考えでございます。

合わせて、事前予約の話がありました。これについては課題であると感じております。いろんな通信機能が発達している中で、インターネットを使っての予約をあちこちでやっているのは承知しています。できた方がいいというのは間違いありませんけれども、駐車場の問題があります。「予約をしたけど、車が止められない。」という話が現実にあります。例えば、朝11時のチケットを9時に買いに来られていったん家に戻って、「さあ、行こう」と思っても車が止められないというので、お叱りをいただいたこともございます。今後導入するということは検討していきたいと思っております。予約につきましては、座席にも限りがありますので、予約で埋まってしまって、当日来た人が見られないということも具合が悪いかと思えますから、90席の内、何席をそこに割り振るのかというのは、今後検討していきたいと思っております。

2点目の質問であった、どういう来館者があるかということですが、昨年度の状況を見ていると、例えば京都の幼稚園とか、大阪の小学校とか今までなかったようなところからも来ていただいているようですし、草津や守山方面からもすぐに来れますので、そういったお客さんもたくさん来ていただいています。個人のお客さんについては分析はしていませんが、団体のお客さんで考えると、ある程度はつかめるかと思っています。他にもいろいろと教室があるのですが、市外の方も申し込みができますので、そういった方の割合なども考えるとある程度わかってくると思います。

委員

市外と市内が分かればいいかもしれませんが、それをどういうふうにするのでしょうか。市外が多いとなったとしてもそれをどう活用できるかも難しいと思いました。

委員

大津市の税金を使ってるので、大津市の方が得をする施設であってほしいというのは市民なら誰も思っているのではないかと思っています。例えば、展示ホールを大人300円にして、大津市民は200円にするとか。自分が得をすると思ったら、大津市民である証明書を素直に見せるんじゃないかなと思いました。

事務局

同じものを見るのに、市内市外で差をつけるのは果たして納得してもらえるかどうかという問題はあるのかなと思っています。国立の施設だったら、そんなことはないですけど、県立だと県民とそれ以外というのなかなかやっているところは少ないと思います。我々としても収入を増やしたいという思いは持っています。大津市民にできるだけ何かしたいという思いは持っています。ただ、いちいち聞くとすると、職員の手間が非常にかかってきます。平日のお客さんが少ない時はできるかと思いますが、先週の土日のようにひっきりなしにお客さんがやってくる状況では不可能かなと思っています。

それと運営については市税が投入されているのですが、国税でもまかなわれています。そう考えると、個人のお客さんにそういったことをするのは難しいですが、団体については事前に分かっ

ているわけですから、割引率を変えるなど可能かと思います。

委員

昔なら、割引券を出すのも面白いけど、今は難しいかもしれないですね。

委員

今の話は、どこから来たのかを調査する話なら、なんかお金がかかるというイメージがあるかもしれないですけど、例えば家庭用監視カメラみたいなのをつけたら、簡単に調査できる話なんですよ。お客さんが来る時間とどこから来るのかというのを車のナンバーからすぐ分かってしまう。来るピークとか、どこから来るのかというのをどんどんデータ化することができるはず。そんなに難しい話ではないと思います。そうすると、大津市かどうかはわからないですが、県内かどうかというのはわかるし、県内の方が多かったら当然、車で来る人が多いということなので、駐車場がどれだけ足りないのかという分析にもなるだろうし、混む時間と混まない時間が分かると、うまく投影時間などを調整するなど、いろんなことに役立てられるので、必ずいい効果があると思います。業者に高い金を払って依頼することだけが、解決策ではないと思います。

最後にもう一個、質問なんですが、移動教室に来る小学校というのは、大津市内のすべての小学校ですか。

事務局

そうです。移動教室は大変伝統があり、科学館がここに立つ前からありまして、もう50年くらいの歴史があります。歴史があるから続けているのではなくて、展示ホールで直接体験してもらったりとか、プラネタリウムを見てもらうということが大事です。だから大津市の子はバス代なども市が出して、子どもたちは全く無料で来てくれて、学習の機会を与えているということです。

委員

先ほど小学校が来ていたが、引率の先生が1名来て、児童には自由に回らせるという方法なんですか？

事務局

それは学校によって違います。展示ホールでは、例えば、2階と3階に分けて時間で区切って活動するところもあれば、実験のコースがいくつかあって、その実験を選ばれた場合は、サイエンステーブルで科学館の職員と引率の先生と一緒に、演示実験をしたりとか、子どもたちに実験させたりとか、というメニューを選ばれる学校もあります。展示ホールとプラネタリウムが、必修となっています。6年生にもなると、先生と一緒に行動しなくても、班を作ったり、個人で活動させたりで学習させることができているかと思います。

委員

6年生にというのはすごく良いと思います。私の息子が6年生のときに地球の公転について説明をするのに、家の地球儀とペンライトで説明しました。それに似たものが、3階の展示物でありました。それで、何でそれをしようかと思ったかという、中学校の地理の学習で北半球と南半球の寒暖差、季節による気温の変化、理科の学習では、北極星は見えるが南十字星は見えないのか、月の満ち欠けがどうして起きるか、潮の満ち引きがどうして起きるか、夏と冬がどうしてあるのかなど、全部あれで説明できるんです。逆にあの模型がないとただの丸暗記になってしまうんです。まさに、あの模型を使って自分の息子に説明したかったなと思っていました。だから、ちゃんとした先生がいたら、あれで全部説明できるから、その子の学力に影響するいい教材だなと思い、感心していました。ぜひとも市内の6年生にじっくり見てほしいなと思っていました。

もう一つ、トライアルジャンプでは、月で跳んだら、270cmという数字を見たのですが、子どもたちは「あー、270cm なんだ。」で終わってしまいますよね。それが、もしも下の階にあって、その人が跳んだ映像を撮影しておいて、月の映像と組み合わせて270cm 跳んでいる映像になったら、よりそれが具体的に実感できて、思い出深いものになるんじゃないかなと思っていました。予算的には、難しいかもしれませんが。

そんな風に、展示物については、「将来こんな風になってほしいな。」という思いをもちました。また私の思いをお伝え出来たらと思っています。

事務局

貴重なご意見ありがとうございます。6年生の「移動教室は意味がある」と言っていただけで、とても嬉しいです。

委員

館長のあいさつにもあったように、プラネタリウムについては老朽化が進んでいる、その一方で小規模プラネタリウム入館者数全国一位になりたいという野心もある、新しい機械を入れるとなると億単位の金がかかるという話もありました。高額のため予算を確保するのが難しいことはよく分かるのですが、何か作戦があれば、教えていただきたいです。

事務局

教育予算は限られています。どうしても縦割りの中で割り振られています。教育予算は、だいたい160億ぐらいだと思うのですが、主な事業として小中学校の体育館の空調やトイレの改修であったり、耐震の工事であったり、建物に関する事で非常にお金がかかっています。そのなかで、かなり高額な商品です。やはり有料でやっているの穴を開けることはできないと思っています。本質的なところで議論しないといけません。大津市にプラネタリウムが必要か不要かという話になってくると思います。多くのお客さんがプラネタリウムを見たいという思いで来てくださっている

ので、そのことをしっかり私たちが訴えていく必要があると思っています。できるだけ前向きな判断をしていただけるように、働きかけをしないといけないと思っています。私たちだけが言うのではなく、ご利用いただくみなさんからのご意見やご協力をいただきながら、存在価値を訴えていきたいと思っています。

委員

観覧者数は確実な実績で、他と比較しても上位にいくというのはしっかりとアピールしてもらいたいと思っています。展示ホールとプラネタリウム比率の高さをもっと他施設と比較してもらえたら良いと思います。また、来館総数の70%以上がプラネタリウムみているのはすごく良いデータだと思います。それを周知していきたいですね。アンケートを子どもから取っているということですが、保護者からのアンケートもあれば市議会への訴えかけにもかなりの強みになると思います。どうやっていくかということですが、来られた子どもから保護者が良さを聞き、アンケートをもらうのがよいのではないかと思います。

委員

アンケートについては、昨年度からの話が出ていました。6年生の保護者というのもあるし、来場者のアンケートもできると思います。例えば、QRコードとか利用して、駐車場のこととか居住地のこととかも答えてもらうようにしたら、いろんなデータが蓄積されていくと思います。また、生の声を聞くことができるので、大津市科学館の武器になるだろうと感じていました。

事務局

やはり、利用者の声は非常に大事だと思っています。今までプラネタリウムを見て、お叱りをいただいたことは無いと思います。料金もリーズナブルで、内容も自信をもっておすすめできます。しかし、一定のご理解はあるけど、これをもって機材の更新をするというのはなかなか難しいというのが現実です。いろんな材料を集めて、予算獲得のため、頑張ってやっていきたいと思っています。

委員

プラネタリウム更新に何億というお金がかかるということですが、400円が600円になったとしても追いつかないだろうなというのは感じています。私は、委員になる前は教職をさせてもらってましたので、プラネタリウムはずっと見せていただいていた。すごく魅力あるものになってきていると思います。みなさんが喜ばれるのも当然だと思えます。なんとしてでも、次長が言われたように、光学式とデジタルと併用したものを将来は入れてもらってほしいなと思います。そのためには市民の声の後押しが必要と館長もおっしゃっていました。だから、QRコードのアンケートはぜひ実施してほしいと思います。私もよくわかりませんが、クラウドファンディングというのはできないのでしょうか。教えてください。

事務局

アンケートについては前向きにやるべきだと考えています。そういった形でいただいたご意見というのは非常に大事だと思います。それが積み重ねられれば、大きな力になると思います。また、クラウドファンディングですが、これについては大津市の中で、実際にやっているのはほぼなく、今の段階では難しいのかなと思っています。ただ、意外とクラウドファンディングに関心をもっている方がおられるというのを知っています。ですが、公設公営でやっている中で、大津市としてその施設が本当に必要なのかというのを判断しながら、予算はつけるのが本来の正しい考え方だと思います。ただ、こういうご支援をいただけるというのは後押しになると思うし、ありがたい話です。

委員

今、話題に上がりましたクラウドファンディングですが、琵琶湖博物館では昨年度も行い、今年度もやる予定です。教育にかかる費用をだれが出すかというのは、自治体が出すのが理想的ではあると思うのですが、私の職場では金額の問題というよりは、その施設を応援してくれる人を募るような気持ちで、クラウドファンディングをしています。

集まった金額うんぬんというよりは、これだけ大勢の人達が、お金を出してまで応援して下さるという事実を作るというのが目的で実際、うちでもお金は全然足りません。足りないので、うちは県の施設なので、県費で補っているわけです。施設のことを知ってもらって、応援してもらおうということを目的にしているので、あまり金額は関係ない、と言いながらも、おっしゃっている通り、何億もするものが、どうなるかということにはなりません。

県の場合ですと、クラウドファンディングを行うときにかかる手数料を予算として積んでおかないと、そもそもクラウドファンディングにエントリーできないです。なので、急にできるものではないと思います。お金をもらったものの、使い道をどうするかということで困ることもあるし、リターンをどうしようかという悩みもあります。県は、物のリターンはだめということになっていたりして、自治体のいろんな人の考えを集めないといけないということが、実際にやってみてわかりました。大津市がどういった形でこれができるのかというのはわかりませんが、これをやると大勢の人から応援してもらったという事実がはっきりと出てくるので、そういう説得力をもたせることはできると思います。

事務局

ありがとうございました。ぜひ参考にさせていただきたいと思います。

委員

今後の移動教室の実施がすごく心配です。少なくとも一生に一回はプラネタリウムで星空に興味を持つのはとても大事なことじゃないかということを思っています。そこで、市長が学校現場の多忙の捉え方について発言されていますが、市長の多忙の捉え方についてもう少し教えてほしい

です。

事務局

来年は大阪万博に子どもたちが行くようなことをニュースで言っていると思います。また、滋賀県では国スポ障スポにも連れて行くということも言われている。通常でも、毎年たくさん行事があるのに、その中に万博、国スポ障スポが入ってくるってどうなのか、というところだと思っています。

委員

私も、移動教室のことについて思っていることがあります。子どもたちの様子を見てみると、初めて来たという子もいるし、教室ではできない実験ができるということもすごく大きな魅力だと思っています。移動教室での感想を子どもたちからアンケートを使って聞くというのはすごくアピールになるのではないかと思います。

また、子どもたちの学習の効果を上げる手立てとして、メダカのところに成長日記があったと思いますが、私はああいうものに思わず目がいってしまいます。そういうものも、子どもたちの学習の良い手立てになっていると思います。やっぱり初めて見た子は、ああいうところから始めたいと思うので、そういうのを通して、アンケート結果がよりいいものになればいいなと思いました。

事務局

メダカの日記は予算0円です。職員が手書きで作りました。今のことを伝えたら喜ぶと思います。ありがとうございました。

委員

新しい施設、琵琶湖ウォッチングができて、とっても素敵だな、見ているだけでとっても楽しい、最後まで見ていたかったなというのが率直な感想です。私も知らないことがたくさんあるのですが、プラネタリウムのリーフレットを幼稚園もいただいでいて、家庭に配らせてもらっているのですが、市外からも来ているのだろうなとも思っていました。市外の幼稚園や小学校、中学校にもチラシやポスターの配布はされているのかなと考えていました。そういうことも大きな集客につながるのかなとも思っていました。

事務局

ありがとうございます。幼稚園くらいのお子さんは津市内も多いですが、草津、守山、山科もすごく多いです。もちろん小学生も県内から校外学習かなりの数来ていただいています。びわ湖ホールでホールの子というのがあるときには、それでバスが出るので、半日向こうで過ごして、残り半日をここで過ごすというパターンを作っていただいている学校もあります。他には、草津の帰帆島公園とのセット、琵琶湖博物館とのセット、というのもあって市外だけでなく、県外からもたく

さん来ていただけるようになってきました。ありがとうございます。

委員

科学館さんには、子どもたちいつもお世話になっています。琵琶湖博物館にもいつもお世話になっています。先日、子どもたちが行く前に職員で下見をしていたのですが、子どもたちが遊びの中や日常で、どのようなことに興味を持っていて、行かせていただいた後にはどのような変化があったのかということをお話していました。5歳児の子は、ミラーハウスが気に入ったみたいで、帰ってから鏡を見ていました。こういうのが科学的な思考につながるのかなと思いました。子どもたちがアンケートを書くのは難しいが、そういった科学的な思考の芽生えのことなどをアンケートでお返しすることもできるかもしれないなと思っていました。

委員

たくさんのご質問やご意見をいただきました。以上で、協議及び質疑の時間を終了いたします。

事務局

本日、いただきました貴重なご意見は今後の科学館運営に生かしていきたいと思っております。ありがとうございました。